

令和3年度Sport in Life推進プロジェクト
(スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験)

発達障がいのある幼児・小学生を対象とした 運動・スポーツの意欲向上のための実証実験

令和4年3月1日

公益財団法人 横浜YMCA



Sport in Life

令和3年度 Sport in Life推進プロジェクト (スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験) 事業報告概要

代表団体

公益財団法人 横浜YMCA

事業タイトル

発達障がいのある幼児・小学生を対象とした運動・スポーツの意欲向上のための実証実験

構成団体	神奈川県立保健福祉大学笹田哲研究室 (株)横浜ビー・コルセアーズ 学校法人 横浜YMCA
対象テーマ	子ども
実証フィールド (地域)	横浜市港北区・戸塚区

事業内容サマリ

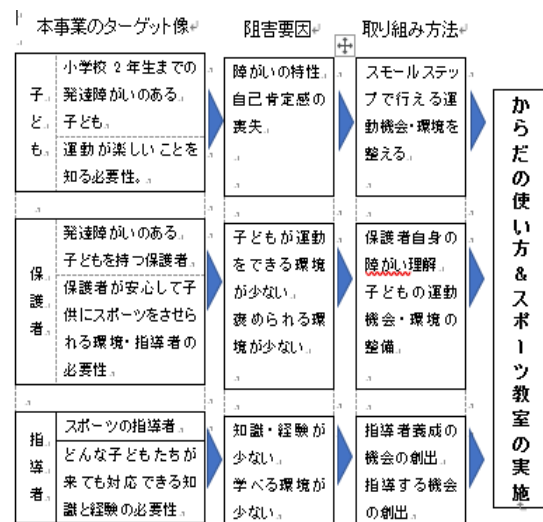
彼らの動きの特性を見極め、その子に合ったレベルでスモールステップでの練習を楽しく続け「できる体」を作ることを目的とする。また、それらを達成するために指導者の育成・保護者の理解を併用して行うことで、彼らの環境も整えていく。そして、その子にとって楽しく多様なスポーツ・運動ができるチャンスを提供することを目的としていく。

ターゲット

●本実証実験のターゲット

- 発達障がいのある幼児～小学2年生の子どもと保護者
- 発達障がい児への運動・スポーツ指導を希望する指導者

●ターゲットのスポーツ実施を妨げている要因(仮説)



事業の実施概要

【事業内容】

- 指導者養成講習会(オンラインでの実施)
「できるを増やす!運動スポーツの指導法」
2021年11月12日(金)
講師: 県立保健福祉大学 笹田哲先生
参加者: 21名
「発達障がい子どもへの指導法教えます」
2021年11月17日(水)
講師: 横浜YMCA 田沼美穂
参加者: 28名

- 保護者勉強会・親子スポーツ観戦
「小学校に入るまでにやってみたいからだづくり」
2022年1月29日(日)
講師: 県立保健福祉大学 笹田哲先生
参加者: 44名

- 親子スポーツ観戦
横浜ビー・コルセアーズの横浜での試合観戦
2022年1月5日(土) 28名 6日(日) 32名
→ 両クラブ選手に新型コロナウイルス陽性者が確認され、試合が中止

- ターゲット(子ども)に対する種目別講習会の実施
「からだの使い方 & スポーツ・体育教室」

	日程	内容
A コース	11月21日(日)	かけっこ・とびばこ
	12月4日(土)	バスケットボール
	12月25日(土)	かけっこ・なわとび
	1月8日(土)	アルバルク東京戦
B コース	11月28日(日)	かけっこ・とびばこ
	12月18日(土)	バスケットボール
	1月9日(日)	アルバルク東京戦
	1月23日(日)	かけっこ・なわとび

- *参加者数 Aコース8組、Bコース8組の参加。
- *全工程(3回)参加者は7名であった。延べ人数では45名となった

時間	内容
9:30	スタッフ集合・打合せ
10:00	メンバー集合
10:10	あいさつ・今日の流れの確認
10:55	休憩
11:05	「スポーツ・体育教室」
12:50	ふりかえり・あいさつ 保護者アンケート記入



令和3年度 Sport in Life推進プロジェクト (スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験) 事業報告概要

代表団体

公益財団法人 横浜YMCA

事業タイトル

発達障がいのある幼児・小学生を対象とした運動・スポーツの意欲向上のための実証実験

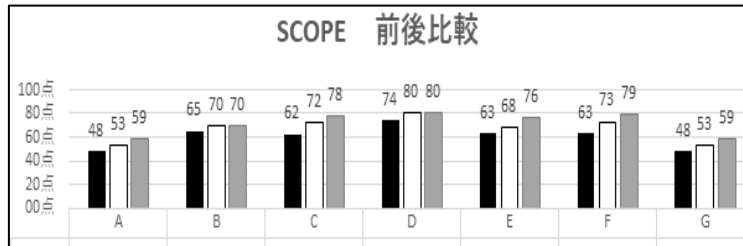
効果検証の方法と結果

発達障がいのある子ども (年中～小2)

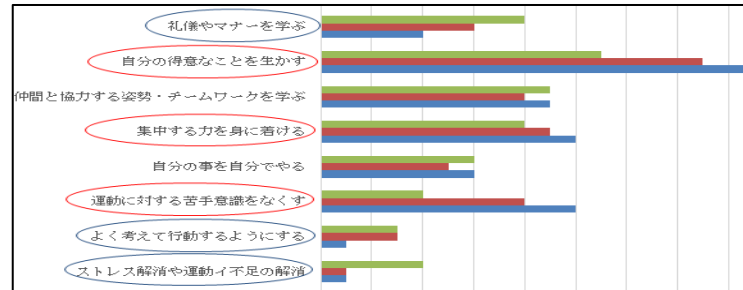
調査方法

- ・走行タイムの前後比較
- ・児童版・意志質問紙(PVQ)による得点の推移
- ・短縮版・小児作業プロフィール(SCOPE)による得点の変化
- ・発達スケール(KIDS)によるプログラム実施前後の比較

走行タイム・PVQ・SCOPEともに向上の数値を見せた。特にSCOPEにおいては10点以上向上している子どもも見られた。発達スケールは保護者が記入するスケールのため、保護者も子どもの成長を実感していることがわかる。



回を重ねると保護者が求めていくことが、外的要因から内的要因に変化してくる。



【アンケートより】

- ・なんでうまくいかないのか疑問な点が多かった。「がんばれ」「やればできる」では子どもたちはやる気にならないことに気が付かされた。
- ・スモールステップでの活動が大切なことはなんとなくわかっていたが、再度確認することができた。
- ・「なんでできないのか？」を考えながら教えていきたい。

発達障がいのある子どもをもつ保護者

調査方法

- ・勉強会実施後のアンケート
- ・「からだの使い方＆スポーツ・体育教室」参加時のアンケート・聞き取り
- ・スポーツ観戦会参加時のアンケート・聞き取り

発達障がいのある子どもの指導をする・したい指導者

調査方法

- ・子どもの特性を理解し指導に反映させる
- ・指導後反省会を実施する。
- ・勉強会後のアンケート

結果に基づく要因の分析（仮説検証）

	スポーツ実施の阻害要因	効果スポーツ実施の促進要因（検証結果）
子ども	・苦手意識が先行してしまい、「できないからやらない」悪循環を招く。	・「からだの使い方教室」に参加することで、直接スポーツに入る時よりもスムーズに参加ができた。特に運動の苦手な子どもたちにとっていないにゆっくりとしたスモールステップでの指導が必要である。 ・「できる」体験を多く積むことで、苦手意識を改善することができる。
保護者	・子どもに対する期待感が高い。	・子どもに期待することが「礼儀・マナー」など周りを意識することから子ども自身の「得意な部分を生かす」「苦手意識をなくす」など子ども自身の変化に目を向けられるようになってきている。 ・子どもの「できた」が保護者にとっても喜びを与え、一緒に運動することが楽しくなってきた。
指導者	・一斉指導従来の指導法を実施している。	・個人の様子に目を向け、小さな成長を楽しむスポーツ指導を身に付けていくことが必要となってくる。

【ポイント】

- ・発達障がいのある子どもたちが、やったことのないことにどうチャレンジしてもらうかがキーポイントになる。
- ・指導者がスモールステップで指導するとともに、子どもたちの特性を理解して指導をしていくことが重要
- ・保護者も「みんなと一緒に」「きちんと行う」ということよりも「得意なことを生かす」ことを重要視できるように伝えていく。

今後の展開

- ・子どもたちのスムーズな参加のために「慣れた場所」「慣れた指導者」の設置
- ・「自分の得意なことを生かす」ことを考えられるよう、保護者への支援
- ・週1回、横浜YMCAのスタジオで行っている。このクラスを継続していく。(参加費用の課題有)
- ・検証数の少なさ。検証数をいかに増やしていくかが課題
- ・「スモールステップをやらなかった場合」の立証をすることが難しい。検証として立証するには不完全であるため、検証を続けていきたい。

